

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサークル真岡キッズ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		～ 2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		～ 2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士等の外部講師に定期的に訪問していただき、職員の専門性および支援スキルの向上を図る機会を設けている。	言語聴覚士会会長等の外部講師を招き、定期的な研修を実施することで、職員の支援スキル向上とサービスの質の維持・向上に努めている。	今後は言語聴覚士に限らず、理学療法士等の専門職による研修機会の拡充を図っていく。
2	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫を行い、多様な活動プログラムを作成している。	活動プログラムの中で様々な成長が得られるよう、プログラム数を増やすとともに、児童および職員双方のマナー化防止に努めている。	今後はさらにプログラム数・内容の充実を図り、児童が獲得できる経験やスキルの幅を広げていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者対応やフィードバックの際、担当職員によって課題提示や質問への助言内容に差が生じることがある。	職員の経験年数や知識量の差が要因であると考えられる。	経験年数のある職員による事例共有や、実際の対応を振り返る機会を設け、対応力の均一化を図っていく。
2	保護者同士の交流の機会が少ない。	働いている保護者が多く、交流の場の設定が難しい状況にある。	開催時期や時間帯を工夫し、参加しやすい交流の機会を検討・実施していく。
3	支援内容や取り組みの意図が、すべての保護者に十分に伝わりきれていない場合がある。	日々の支援は行っているものの、説明や情報発信の方法が限定的であり、理解に差が生じることがある。	面談やお便り、掲示物等を活用し、支援の目的や児童の成長過程を分かりやすく伝える工夫を行っていく。